

趣味・娯楽活動の時間について

(財)統計情報研究開発センター

村田 磨理子

内容

- 趣味・娯楽への生活時間配分の分析
 - 15分単位の時間帯の統合に関する考察
 - 1日の中での行動回数と1回当たり継続時間
 - 趣味・娯楽の種類と行動時間の関連

匿名データの利用に当たって

- 既存の統計表であまり使われていない属性について、分析対象の行動(趣味・娯楽)との関連を確認する
- 属性を組み合わせて、項目を新たに作成する
- 行動者率・平均時間・平均時刻とは別の観点で、要約を試みる
- 特定の集団に限定して分析するときは、適切な標本サイズを確保しているか留意する

平成13年社会生活基本調査

- 平成13年調査は平成13年10月20日現在で実施
- 生活時間については、10月13日(土)から10月21日(日)までの9日間のうち、調査区ごとに指定した連続する2日間について調査
- 約7万7千世帯に居住する10歳以上の世帯員約20万人が対象

趣味・娯楽活動への時間配分

趣味・娯楽の行動者率及び
行動者平均時間(平日)

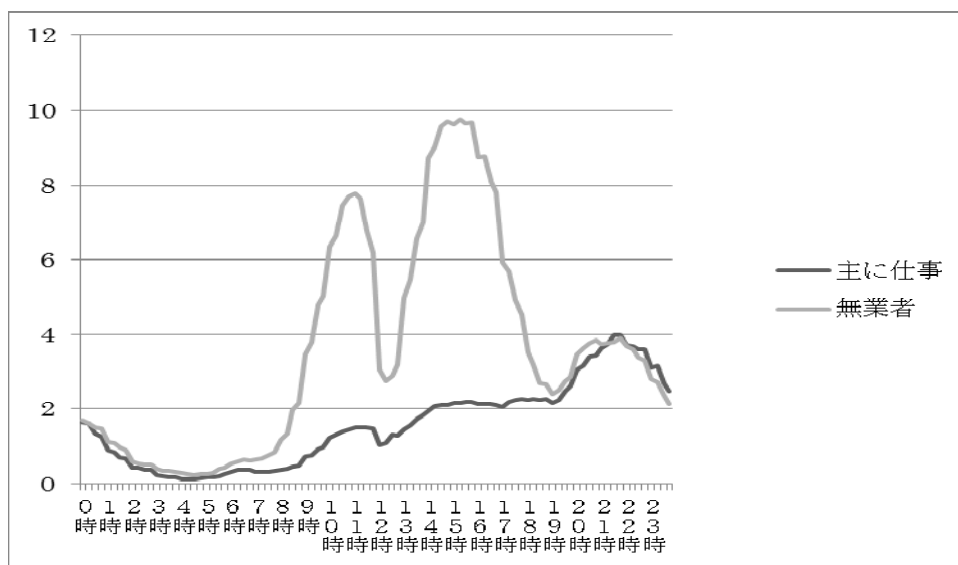
	有業者(主に仕事)	無業者
行動者率	16.5%	32.1%
行動者平均時間	2時間16分	2時間41分

平成13年社会生活基本調査(総務省統計局)

- ふだんの就業状態による違いをみる
- 有業者(主に仕事)と無業者では行動者率に2倍の違いがある
- 行動者平均時間はあまり変わらない(時間階級別にみると、1時間～1時間30分未満が最も多い)

趣味・娯楽活動への時間配分

趣味・娯楽の時間帯別行動者率(平日)



平成13年社会生活基本調査(総務省統計局)

- 15分単位の時間帯別行動者率をみる
- 無業者は昼間に2つの大きなピーク
- 有業者(主に仕事)はいずれの時間帯も4%以下の低い値⇔1日全体では16.5%なのに？

分析の観点

- 15分単位の行動者率が1日を通して低い
ため、より長い時間にまとめて要約する
- 1日の中での趣味・娯楽活動の回数と1回
当り継続時間を見る⇒時間帯の幅の選
択
- 趣味・娯楽の種類による活動時間の違
いを見る

マイクロデータを使うことでこれらの分析が可能
になった

時間帯について

2生活時間について

・指定された第1日と第2日の行動について15分単位に記入してください。

・「行動の種類」、「一緒にいた人」については、当てはまる時間に横線を引いてください。

(1)この日は 次のいずれか(当てはまるものすべてに)

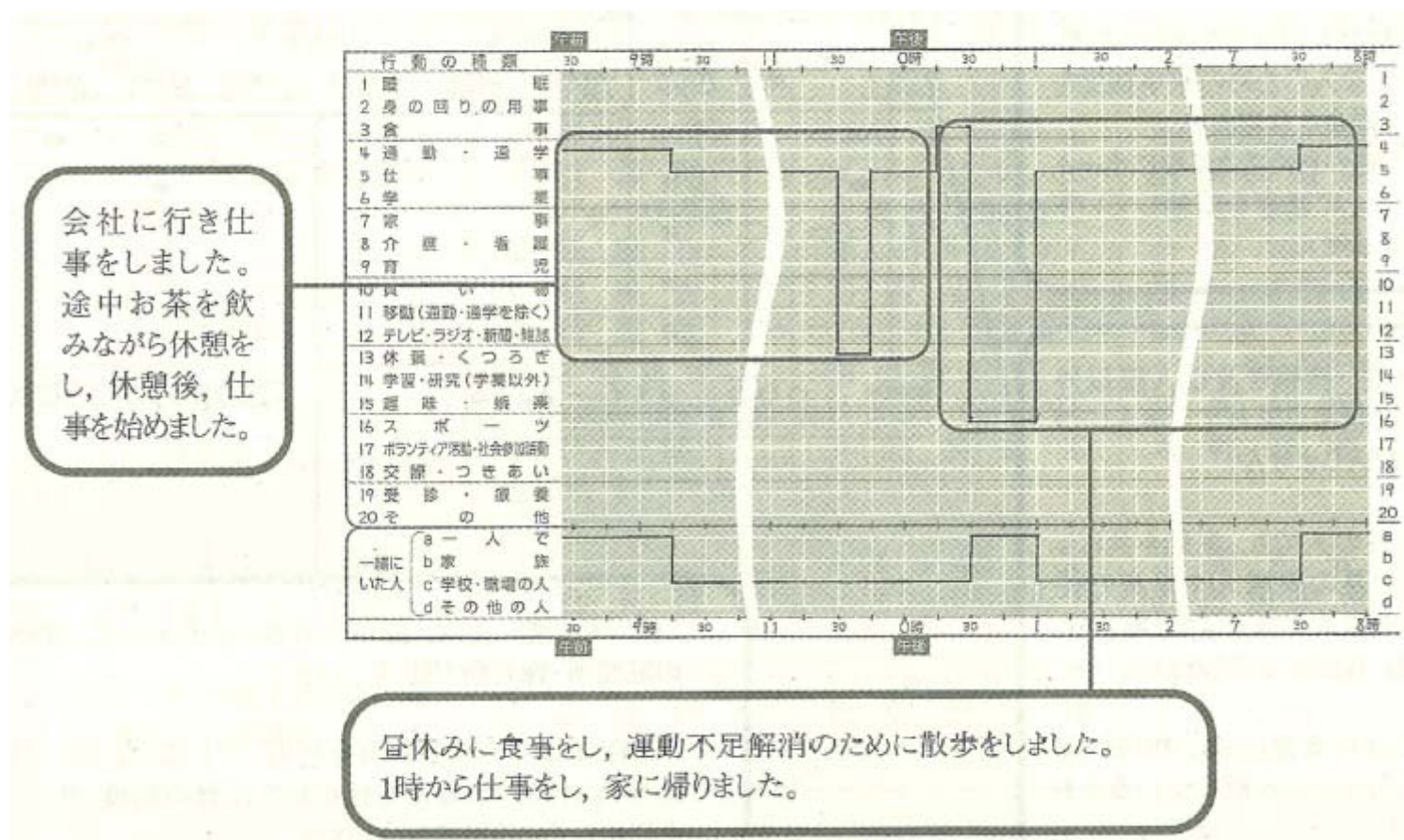
旅行 (1泊2日以上)	行楽 (半日以上の日曜日)	行事または冠婚葬祭 (半日以上の参加)	出張 研修
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

「調査票を記入する前に」をごらんください。 同時に二つ以上

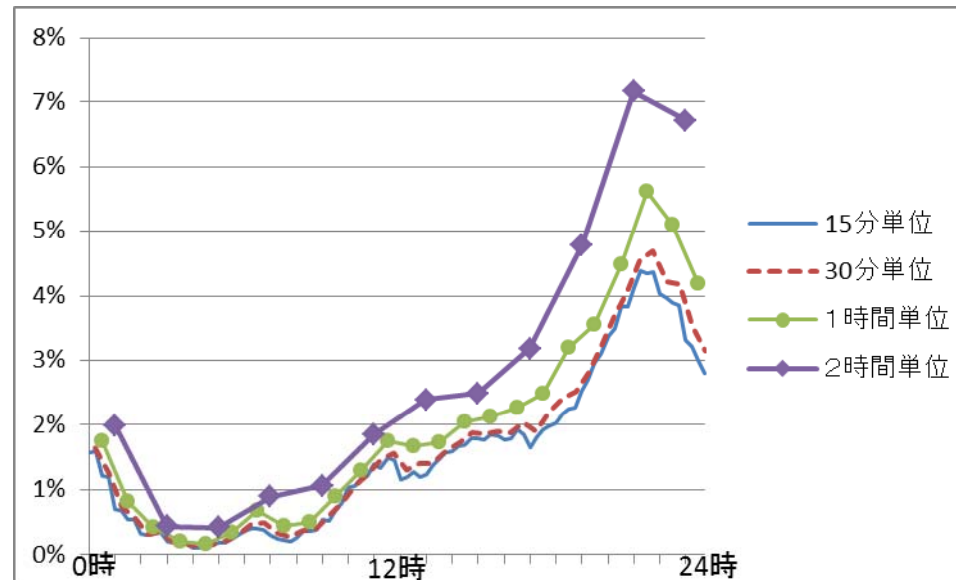
行動の種類	時間			
	0時	30	30	2
1 睡眠				
2 身の回りの用事				
3 食事				
4 通勤・通学				
5 仕事				
6 学業				
7 家事				
8 介護・看護				
9 育児				
10 買い物				
11 移動(通勤・通学を除く)				
12 テレビ・ラジオ・新聞・雑誌				
13 休養・くつろぎ				
14 学習・研究(学業以外)				
15 趣味・娯楽				
16 スポーツ				
17 ボランティア活動・社会参加活動				
18 交際・つきあい				
19 受診・療養				
20 その他				
一緒にいた人	a 一人で			
	b 家族			
	c 学校・職場の人			
	d その他の人			

- 行動を15分単位に記入

生活時間編の記入例



時間帯の幅の変更



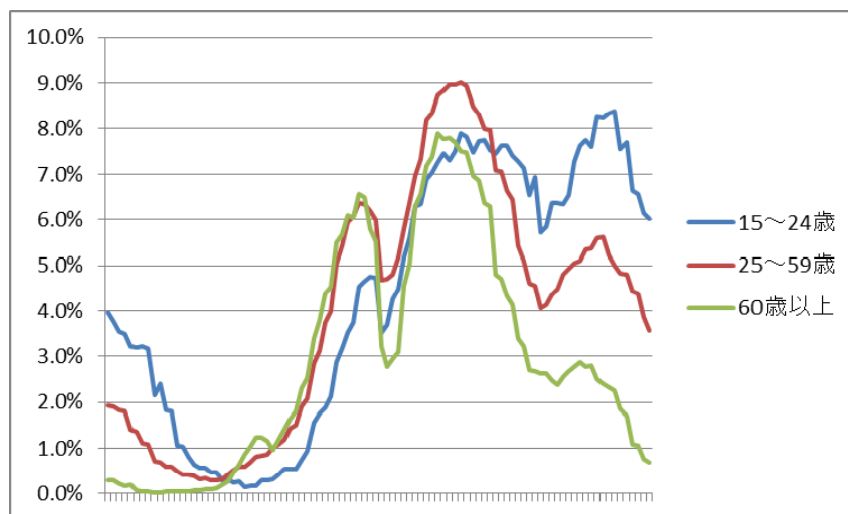
単位時間	時刻(24時間帯)											
	0時	2時	4時	6時	8時	10時	12時	14時	16時	18時	20時	22時
15分単位	2.0%	0.4%	0.4%	0.8%	1.1%	1.8%	2.4%	2.8%	3.2%	4.8%	7.2%	8.7%
30分単位	2.1%	0.9%	1.2%	1.5%	2.2%	3.0%	3.7%	4.4%	6.4%	8.4%	8.8%	
1時間単位	2.1%	1.1%	2.1%	3.4%	4.4%	6.4%	10.4%					
2時間単位	2.4%	3.4%	4.4%	8.4%	11.4%	18.4%						
24時間	18.2%											

趣味・娯楽の時間帯別行動者率(金曜日・有業者(主に仕事)・25~59歳)

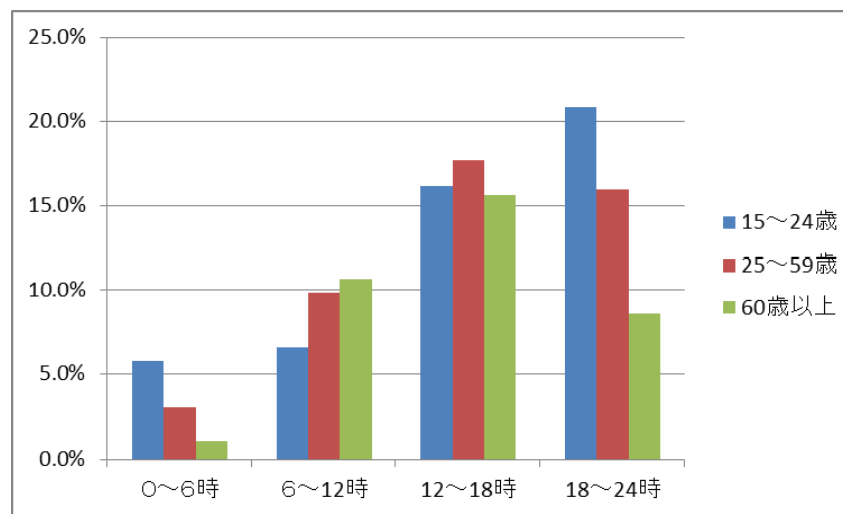
時間帯の区分統合による要約

趣味・娯楽の年齢階級，時間帯別行動者率
(土曜日・有業者(主に仕事))

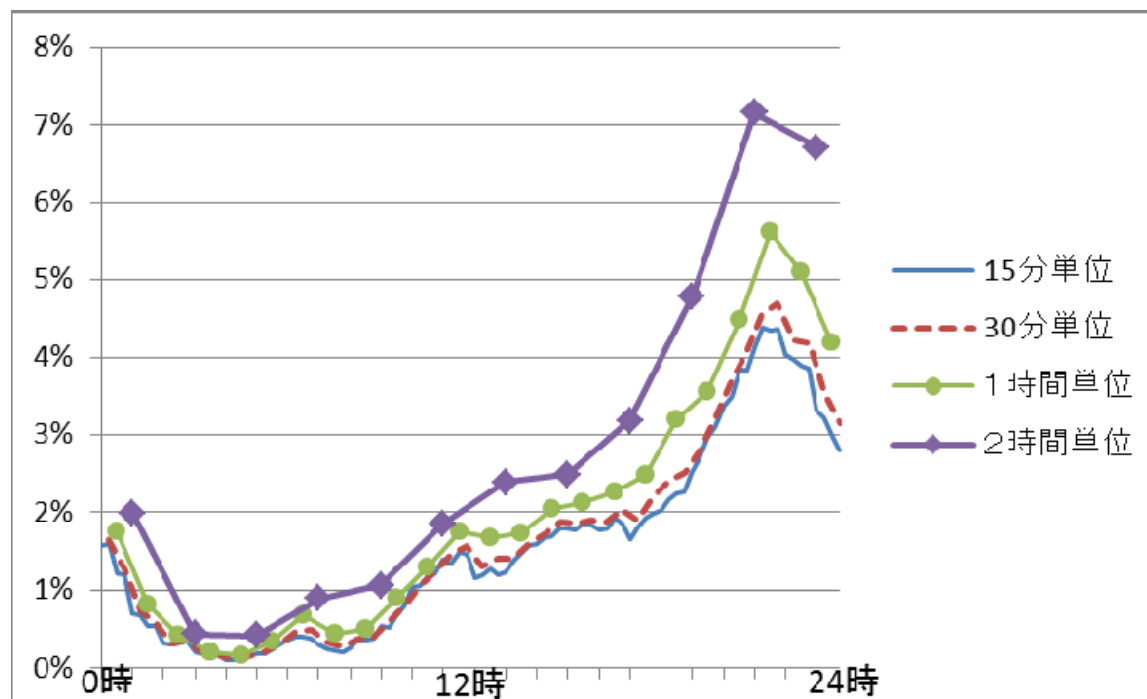
15分単位



6時間単位



時間帯の長さと行動者率



15分単位と30分単位の線がほぼ重なっている

時間帯別行動者率の計算

15分ごとに入れ替わる場合

	18:00～ 18:15	18:15～ 18:30	18:00～ 18:30
個人A	○	—	○
個人B	—	○	○
個人C	—	—	—
個人D	—	—	—
個人E	—	—	—
行動者率	20%	20%	40%

30分継続している場合

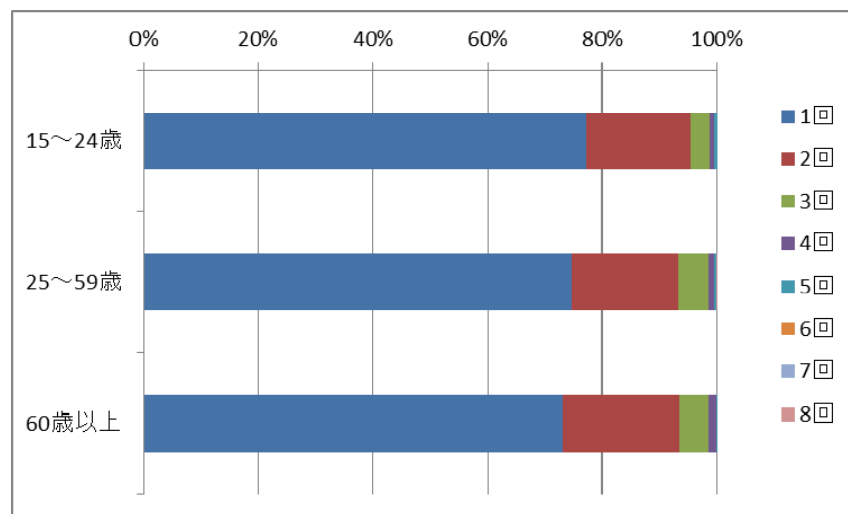
	18:00～ 18:15	18:15～ 18:30	18:00～ 18:30
個人A	○	○	○
個人B	—	—	—
個人C	—	—	—
個人D	—	—	—
個人E	—	—	—
行動者率	20%	20%	20%

○: 当該行動をした、—: 当該行動をしなかった

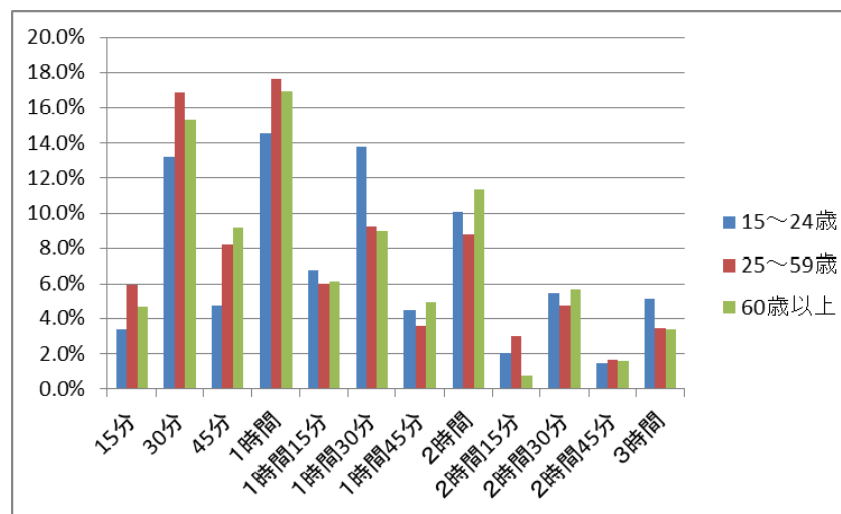
行動回数と継続時間

趣味・娯楽の年齢階級別行動回数構成比・継続時間構成比
(金曜日・有業者(主に仕事))

行動回数



1回当たり継続時間



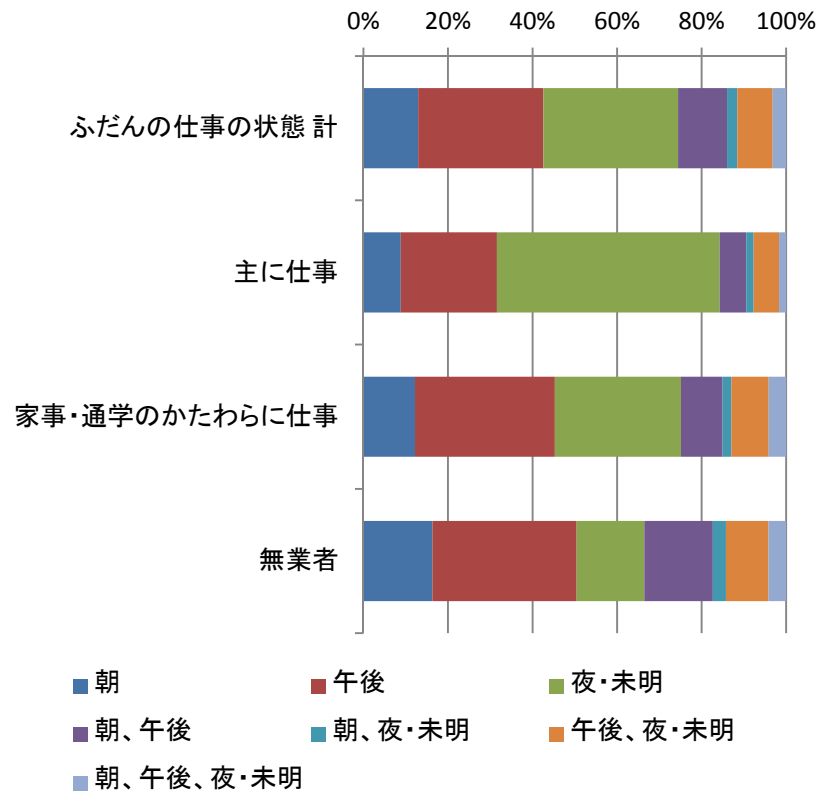
行動回数と継続時間

- 1日に1回のみ活動(金曜日の有業者)
- 1回当たり継続時間は1時間、30分、1時間30分の順(金曜日の有業者)

⇒時間帯の単位時間は1時間または30分が適切かもしれない

行動の時間帯の選択

ふだんの就業状態, 趣味・娯楽の行動開始時間帯別行動者構成比(金曜日)



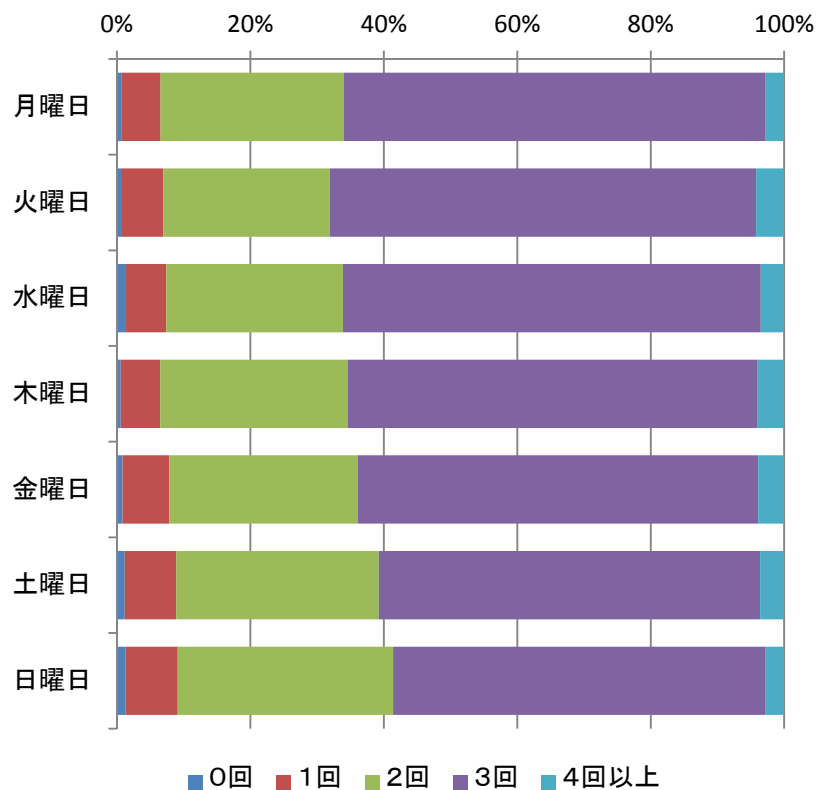
- 無業者は午前と午後の2回のピークがあるが、行動回数は1回が6割を占める。また、朝から開始のみが約2割、午後から開始のみが3割、夜・未明から開始のみが2割である
- 時間帯の選択は、属性によるのか？趣味・娯楽の種類によるのか？

行動回数による分析の可能性

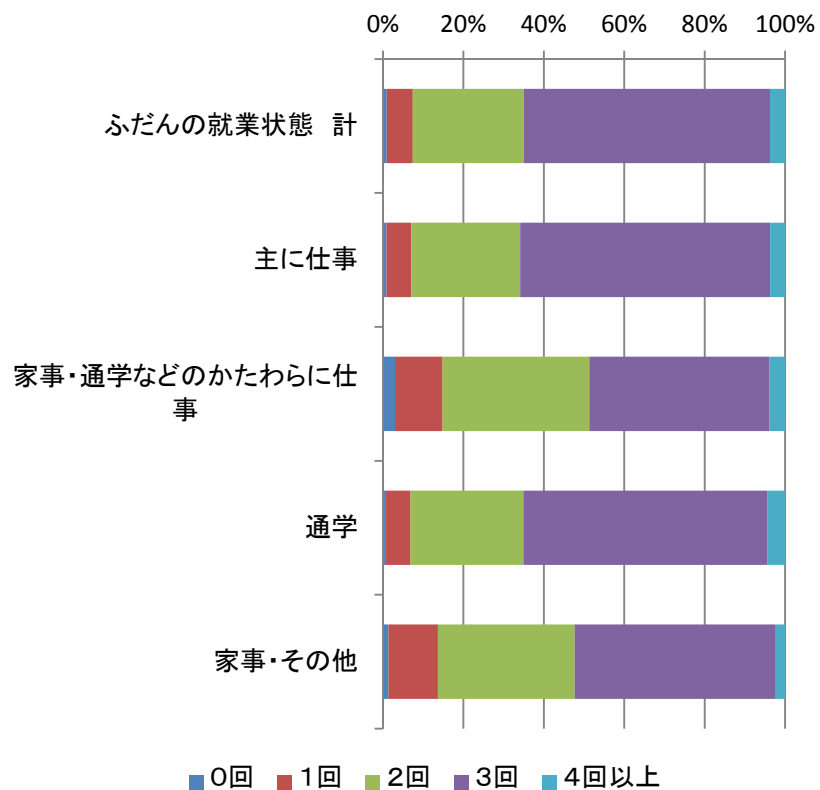
- 趣味・娯楽以外の行動についても、行動回数を算出した
- 年齢階級、ふだんの就業状態、曜日による違いが顕著なものがある
 - 食事の回数
 - 育児の行動者平均時間と回数の関係 など
- 長時間にわたる行動(睡眠、仕事等)については、回数は意味がない

行動回数による分析例

曜日別食事の回数 (有業者(主に仕事))

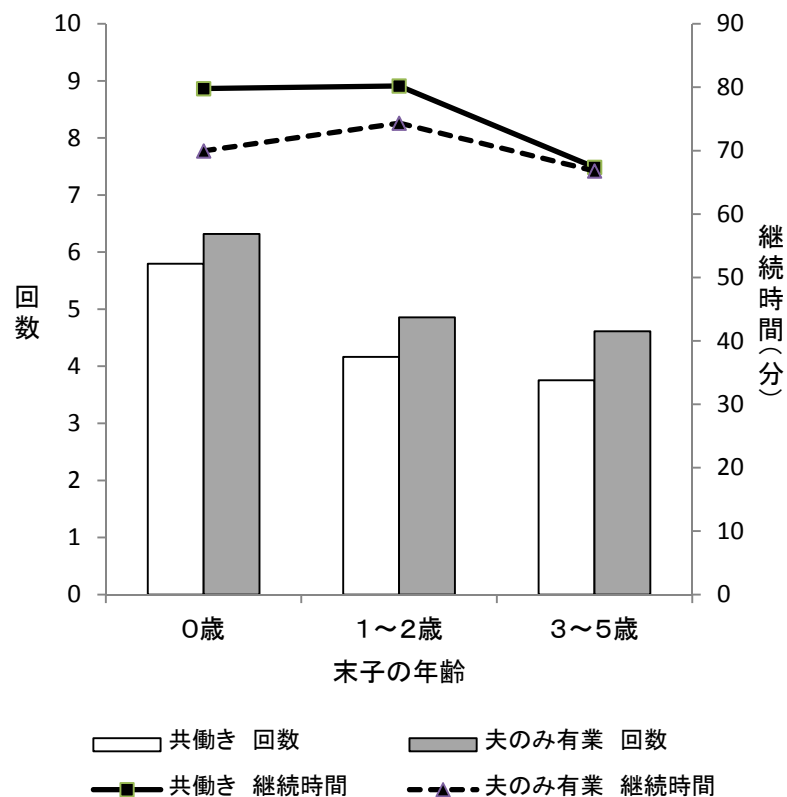


ふだんの就業状態別食事の回数 (平日、15~24歳)



行動回数・継続時間の分析例

家事・育児の行動回数及び継続時間
夫婦と子供の世帯の妻 日曜日



家事・育児の行動者平均時間(分)
夫婦と子供の世帯の妻 日曜日

末子の年齢	共働き	夫のみ有業
0歳	462	442
1~2歳	334	361
3~5歳	254	308

行動者平均時間
= 行動者平均回数 × 平均継続時間

行動の種類(生活時間編)

午前	行動の種類		0時	30
	1	睡眠	眠	
2	身の回りの用事	用事		
3	食	食		
4	通勤・通学	通学		
5	仕事	仕事		
6	学業	学業		
7	家事	家事		
8	介護・看護	看護		
9	育児	育児		
10	買い物	物		
11	移動(通勤・通学を除く)			
12	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌			
13	休養・くつろぎ			
14	学習・研究(学業以外)			
15	趣味・娯楽			
16	スポーツ			
17	ボランティア活動・社会参加活動			
18	交際・つきあい			
19	受診・療養			
20	その他			

- プリコード方式による20分類(調査票A)
- 趣味・娯楽の詳細は分からない

趣味・娯楽の種類(生活行動編)

18

スポーツ、趣味・娯楽について

・授業、研修として行うものは除き
クラブ活動や部活動は含めます
・スポーツは、単に見物している場合は除きます

(2)この1年間に何日ぐらいしましたか(下の1~7の数字で記入)

1: 1 ~ 4日
2: 5 ~ 9日
3: 10 ~ 19日(月に1日)
4: 20 ~ 39日(月に2~3日)
5: 40 ~ 99日(週に1日)
6: 100 ~ 199日(週に2~3日)
7: 200日以上(週に4日以上)

(1) どのようなことをしましたか

<スポーツ>		しな	か	し	た	(2)
		な	か	し	た	(2)
野 球 (キャッチボールを含む)		○	○	○	○	.
ソフトボール		○	○	○	○	.
バレーボール		○	○	○	○	.
サッカー		○	○	○	○	.
卓 球		○	○	○	○	.
テニス		○	○	○	○	.
バドミントン		○	○	○	○	.
ゴルフ (練習場を含む)		○	○	○	○	.
ゲートボール		○	○	○	○	.
ボウリング		○	○	○	○	.

<趣味・娯楽>		しな	か	し	た	(2)
		な	か	し	た	(2)
スポーツ観覧 (テレビなどは除く)		○	○	○	○	.
美術鑑賞 (テレビなどは除く)		○	○	○	○	.
演芸・演劇・舞踊鑑賞 (テレビなどは除く)		○	○	○	○	.
映画鑑賞 (テレビ・ビデオなどは除く)		○	○	○	○	.
音楽会などによるクラシック音楽鑑賞		○	○	○	○	.
音楽会などによるポピュラー音楽・歌謡曲鑑賞		○	○	○	○	.
楽器の演奏		○	○	○	○	.

(1)		しな	か	し	た	(2)
		な	か	し	た	(2)
つづき	邦 楽 (日本古来の音楽)	○	○	○	○	.
水 泳		○	○	○	○	.
スキー・スノーボード		○	○	○	○	.
ジョギング・マラソン		○	○	○	○	.
運動としての散歩・軽い体操		○	○	○	○	.
その他のスポーツ		○	○	○	○	.
つづき	華 道	○	○	○	○	.
	茶 道	○	○	○	○	.
	和 裁 ・ 洋 裁	○	○	○	○	.
	編み物・手芸	○	○	○	○	.
	趣味としての料理・菓子作り	○	○	○	○	.
	園芸・庭いじり・ガーデニング	○	○	○	○	.
	日 曜 大 工	○	○	○	○	.
	趣味としての読書	○	○	○	○	.
	パチンコ	○	○	○	○	.
	テレビゲーム (家庭で行うもの 携帯用を含む)	○	○	○	○	.
	カラオケ	○	○	○	○	.
	その他の趣味・娯楽	○	○	○	○	.

年間頻度と行動時間の関係

- 年間活動頻度が高いものは調査日の2日間にも出現するのではないか⇒過去1年間の状況と2日間の状況をクロス集計
- 1年間の行動日数：年100日未満と年100日以上（週2日以上に相当）の2区分にする⇒年100日以上の場合の趣味・娯楽の行動時間の長さをみる

種類別年間頻度と行動時間

趣味・娯楽の種類, 行動日数の多寡, 行動時間別行動者・非行動者(延べ数)構成比(有業者(主に仕事))

生活行動編における行動日数の多寡	生活時間編における趣味・娯楽の行動時間							
	しなかつた	1時間以下	1～2時間以下	2～3時間以下	3～4時間以下	4～5時間以下	5～6時間以下	6時間超
趣味・娯楽 計	62.6%	5.5%	7.2%	5.7%	4.3%	3.5%	2.5%	8.7%
楽器の演奏								
年100日未満、不詳	63.1%	5.5%	7.2%	5.6%	4.2%	3.4%	2.5%	8.5%
年100日以上	35.0%	8.3%	11.1%	8.8%	7.3%	6.6%	5.1%	17.8%
園芸・庭いじり・ガーデニング								
年100日未満、不詳	63.0%	5.4%	7.1%	5.6%	4.2%	3.5%	2.5%	8.6%
年100日以上	50.3%	8.4%	9.5%	7.7%	6.0%	4.7%	3.8%	9.7%
趣味としての読書								
年100日未満、不詳	64.8%	5.2%	6.8%	5.5%	4.1%	3.2%	2.3%	8.2%
年100日以上	49.1%	7.8%	9.9%	7.1%	5.5%	5.0%	4.0%	11.6%
パチンコ								
年100日未満、不詳	63.4%	5.6%	7.2%	5.7%	4.2%	3.4%	2.4%	8.1%
年100日以上	35.7%	3.9%	8.1%	6.4%	7.0%	6.2%	4.6%	28.0%
テレビゲーム(家庭で行うもの 携帯用を含む)								
年100日未満、不詳	64.2%	5.5%	7.1%	5.5%	4.2%	3.3%	2.4%	7.9%
年100日以上	42.3%	5.6%	8.6%	8.2%	5.7%	5.9%	4.5%	19.3%

種類別年間頻度と行動時間

- 行動日数が年100日以上の場合、半分以上が生活時間調査日にも趣味・娯楽活動を行っている
 - 「パチンコ」の場合
 - パチンコの行動日数が多い人は、生活時間調査日の趣味・娯楽活動の時間が特に長い
 - パチンコの行動日数が多い人は、他の種類の趣味・娯楽の行動日数は全体的に少ない
- ⇒生活時間調査日の趣味・娯楽活動は「パチンコ」の可能性が高い

まとめ

- 15分単位の行動者率が全体的に低い趣味・娯楽においては、単位時間を長くすることで特徴を要約できる。
- 趣味・娯楽の活動は、1日に1回の場合が多いが複数回の場合もある。また、1回当たり行動時間の最頻値は、時間帯の単位時間を決めるための基準となる。
- 1日の生活時間に関する事項と1年間の生活行動に関する事項をクロス集計することによって、趣味・娯楽の種類と生活時間配分の関連性をみることができる。

<ご案内>

- 本日午前の発表(3本)は、来年度に(財)統計情報研究開発センターから発行を予定している二次利用に関するガイドブックに、「分析事例」として収録する予定です。
- ガイドブックでは、公的統計の二次利用について、手続きの具体的な内容や、初期段階の分析方法を実例を踏まえて解説します。
- 発行時期や内容などの詳細は、確定次第財団HPに掲載する予定です。

<http://www.sinfonica.or.jp/>

利用上の注意

本研究において使用した「社会生活基本調査」(平成3年、8年、13年)の匿名データは、統計法等の規定に基づき、独立行政法人統計センターに提供依頼を申出、承諾を得て提供を受けたものである。本稿に掲載した匿名データに基づく結果は、筆者が独自に作成・加工した統計であり、総務省統計局が作成・公表している統計等とは異なる。

謝辞

独立行政法人統計センター製表部統計作成支援課の担当各位には多大なお世話をいただきました。記して謝意を表します。